

# アマチュア 『疑心暗鬼』

プロとアマチュアの違いは、  
自然を見方に付けたか、敵にまわしたか。



バリューゴルフ  
**VALUE GOLF**  
www.valuegolf.co.jp

## 『ゴルフ外交とゴルフ市場』

ゴルフがこれほど日本の国際外交で登場をすることは、かつてなかった。

トランプ大統領は「何をするよりゴルフを一緒にプレイすることが一番人間の性格が分かる」と言っている。ハンディキャップが2とか3とかと言われるトランプ大統領ならではの発言である。

11月5〜7日の日程で初来日したトランプ大統領は、横田基地に到着すると、その足で東京五輪のゴルフ会場の霞ヶ関カンツリー倶楽部（埼玉・川越市）へ向かった。今年2月の米国での初会談に続き、「ゴルフ外交」で親密ぶりをアピールしていた。安倍首相は、内閣支持率の下落や北朝鮮のミサイル発射を受け、8月の夏休み中もゴルフを控えていたらしいが、トランプ大統領来日で久しぶりにクラブを握ったようだ。ゴルフの結果は、安倍首相はいきなり「チョロ」。その後、チョロ、ダフリ、バンカーの連続で、コースの右から左へせわしなく移動する羽目になったと報道されていた。

また、このゴルフ外交のゲストは、世界4位の松山英樹選手だ。松山選手は今年の9月28日〜10月1日に行われた、世界選抜と米国選抜の団体対抗戦「プレジデントカップ」でトランプ大統領と初対面した。松山選手同伴はトランプ大統領ご本人からのご指名であった。

さて、高度経済成長とともに日本のゴルフ市場が最も拡大したのは1970年から1990年代である。この間ゴルフ場の数は583施設から1992年には2000施設を超えるまで増大し、プレーヤーも1480万人ほどの急激なゴルフブームが起きた。テレビの放映回数が増え、尾崎将司選手や青木功選手、中嶋常幸選手といったスタープレーヤーがファンの期待に応え、優勝回数を増やしていった。考えてみたらどんなスポーツにも、ハードと言われる装置とコンテンツと言われる人材が必要である。

野球であろうが、水泳であろうが、ラグビーであろうが、どんなスポーツにもこの装置と人材があって、それをメディアが広げることで市場が形成される。

アメリカという装置にトランプ大統領という個性的な人材が登場し、世界中のメディアを惹きつける。

今回のゴルフ外交で、トランプ大統領は日本のゴルフ業界に追い風を吹かせてくれたのではないだろうか。そして同伴した松山英樹選手も、大いに日本のゴルフマーケットに貢献してくれたんだと思う。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業（現SRIスポーツ）に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデュース、コンサルティングなども手掛けている。